常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

令和３年１月２２日(金)

◇ 防災と言えば…

　緊急事態宣言の発令を受け、学校は徹底した衛生管理の他、授業参観や資源回収の中止等、行事の見直しを図るなど、感染防止に向けた取組に拍車がかかった。

　６年生は、総合的な学習の時間で防災についての学びを進めている。防災学習の一環として、講師の大山恭司さんを招聘しての救急法の授業も中止の判断を下した。授業の進め方も見直しが必要となる。子供のみならず、担任教師の落胆の大きさは想定外であったが、落胆＝授業に懸けるエネルギーの表れでもある。

　本校では６年生で防災学習を行い、その成果を後輩たちに伝える伝統がある。６年生はこれまでの５年間、その教えを受けてきた。そして、いよいよ自分たちの番だと、熱量をあげて学習に取り組む。役割を担い、全うする自負があるのだ。子供たちの学び熱に担任も感化されるのだろう。とても素敵なサイクルだ。

　これまで積み上げてきた成果が評価されて表彰を受けるなど、本校は防災教育における輝かしい歴史がある。今年度は、その歴史に新たな流れができそうな動きがある。４年生が、社会の学びと関連させ、防災の学びを広げる試みがあった。新しいページの追加だ。さすがの「防災と言えば常磐東小」である。

「防災と言えば…」この言葉を聞くと、ある学校の卒業式の場面が脳裏をよぎる。
　宮城県にある気仙沼市立階上（はしかみ）中学校である。

　東日本大震災により、東北地方の学校は大打撃を受けた。物理的なものだけでなく、子供たちの心もである。
やるせない悔しさと辛さ、無念さの中、それでも前を向いて立派に生きていこうとする姿が、卒業式で答辞を読んだ代表生徒の文言に表れていた。

　YouTube にアップされたニュース映像が削除され、見られなかった時期もあったが、どうやらまた復活したらしい。短く編集されてはいたが…。

　やるせなさで心が大きく揺れ動きつつも、前を向いて必死に生きていこうと誓う中学生のたくましさが映像を通して窺い取れる。

「天を恨まず」と称された答辞を裏面に紹介する。

本日は、未曾有の大震災の傷も癒えない最中（さなか）、わたくしたちの為に卒業式を挙行していただき、ありがとうございます。

ちょうど10日前の３月12日。春を思わせる暖かな日でした。
わたくしたちは、そのキラキラ光る日差しの中を希望に胸を膨らませ、通い慣れたこの学舎を57名揃って巣立つはずでした。

前日の 11日。一足早く渡された、思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、10 数時間後の卒業式に思いを馳せた友もいたことでしょう。
「東日本大震災」と名づけられる天変地異が起こるとも知らずに。

階上中学校といえば「防災教育」といわれ、内外からも高く評価され、十分な訓練もしていたわたくしたちでした。しかし、自然の猛威の前には人間の力はあまりにも無力で、わたくしたちから大切なものを容赦なく奪っていきました。

天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。
辛くて、悔しくてたまりません。
時計の針は14時46分を指したままです。でも、時は確実に流れています。

生かされた者として顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていく事がこれからのわたくしたちの使命です。

わたくしたちは今、それぞれの新しい人生の一歩を踏み出します。どこにいても、何をしていようとも、この地で仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、愛（いと）おしんで過ごして下さい。
先生方、親身の御指導ありがとうございました。先生方が、いかにわたくしたちを思って下さっていたか、今になってよく分かります。
地域の皆さん、これまで様々なご支援をいただき、ありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。
お父さん、お母さん、家族の皆さん、これからわたくしたちが歩んでいく姿を見守っていて下さい。必ずよき社会人になります。

わたくしは、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。
最後に、本当に、本当に、ありがとうございました。

平成23年３月22日第64回卒業生代表 梶原裕太

防災を学んできたからこその感情がそこにある。
本校の児童たちも、卒業生も、学びを通して体に残っていくものがある。